

2. 空知川

富良野高校の側を流れる空知川は、総延長195km、流域面積2,622km²の石狩川最大の支流です。富良野高校の近く五条橋が架かるあたりの右岸は護岸工事が進み、河川敷は運動公園に利用されています。左岸は比較的自然が残されており、一部に河原が広がります。橋からやや下流には中州が見られますが、増水時には消えてしまいます。

自然観察は左岸側が適しています。ヤナギ類の河畔林があり、ヨシ原も広がっています。河原では礫をあつめることができますし、水生昆虫の観察もできます。主な水生昆虫はエルモンヒラタカゲロウ、タニガワ



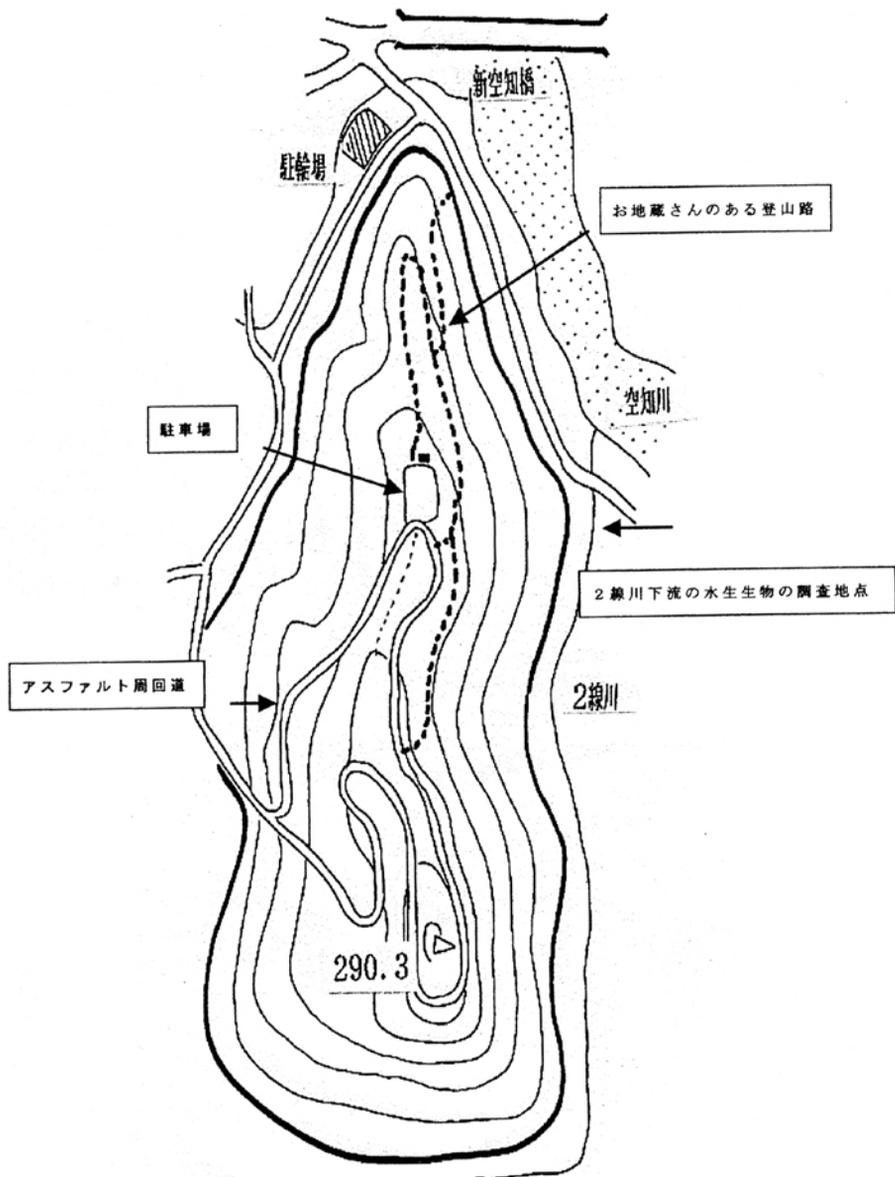
五条橋から下流を望む

カゲロウ、ミツトゲマダラカゲロウなどのマダラカゲロウ類、チラカゲロウなどカゲロウ類やウルマーシマトビケラ、ヒゲナガカワトビケラ、などのトビケラ類が採れます。川岸で網を入れるとスジエビやフクドジョウ、イバラトミヨも採れます。他の魚類は6月にニジマスが放流され1年中見られます。アメマスは少ないながら生息していますが、イトウは昭和60年代前半に姿を消しました。最近に移入種の川ますが捕れています。布礼別川の合流地点ではわずかながら絶滅危惧種のカワシンジュガイの生息が見られます。

河原の植生は帰化植物の進入が著しく、ナガハグサ、シナガワハギ、アカツメクサ、ハルザキヤマガラシ、セイタカアワダチソウ、ムラサキウマゴヤシなどが優占しています。

鳥類は、ヨシ原にオオヨシキリ、ホオアカ、ノビタキなどがみられます。河原にはハクセキレイ、アオサギなどが見られますが、以前は多かったコチドリは最近激減しました。また、河原の土手に営巣するショウドウツバメも少なくなりました。

調査地付近の図



なまこ山の四季

下の4枚の写真はなまこ山の頂上付近の同じ場所から、季節を変えて撮った写真です。雪が解けて、木々が芽吹き、葉を広げ、やがて紅葉し落葉するという落葉樹林の四季の移り変わりがよくわかります。



2月



5月



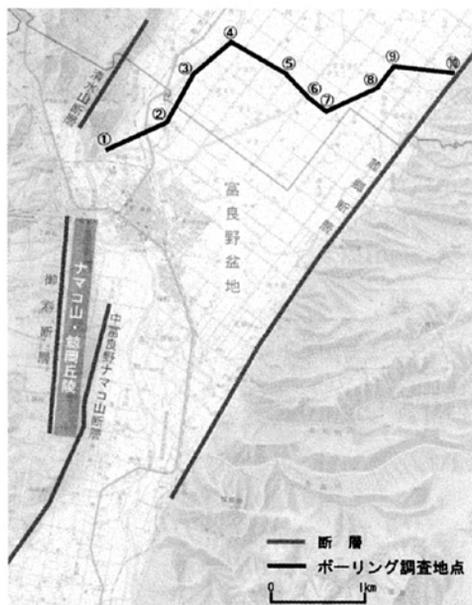
8月



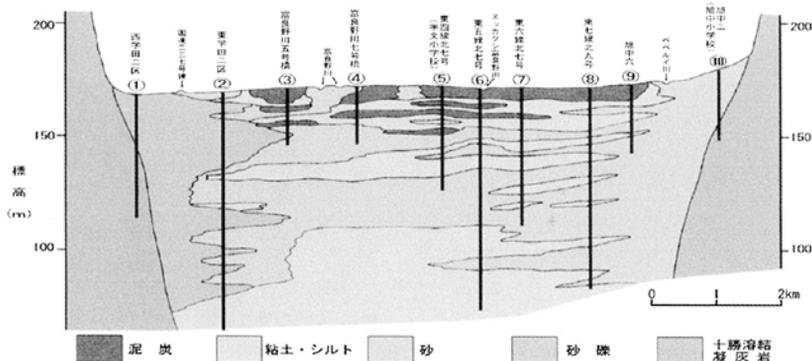
10月

(参考) 富良野盆地の形成と活断層

右の図は富良野盆地と断層の図です。市街地が広がり周囲は農地に利用されているこの盆地は東西に走る2つの断層によってつくられたものです。下の断面図からは、両側の溶結凝灰岩にはさまれた盆地に土砂が堆積している様子がわかります。空知川は山を突っ切る形で北東に流れています。これから、富良野盆地は空知川の流路を変更しない形で陥没したと考えられます。また、調査地のなまこ山は2つの活断層にはさまれながら隆起した溶結凝灰岩の地塊であることがわかります。



富良野盆地の断層とボーリング調査地点



富良野盆地の断面図

参考 五十嵐八重子他 中富良野町史